

27T-pm06S

妊娠中毒症を伴う妊娠および出産と2型糖尿病発症の関連

○末永みどり¹, 櫛山暁史², 庄野あい子¹, 赤沢学¹ (¹明治薬大, ²朝日生命成人病研究所付属医院)

【目的】女性の糖尿病発症は妊娠が要因の一つとされているが、妊娠出産時に高血圧症状を示す妊娠中毒症と糖尿病発症の関係は明らかにされていない。本研究では、2型糖尿病患者において、妊娠が糖尿病発症に関与し、特に妊娠中毒症の経験が、妊娠出産から2型糖尿病発症までの期間（以下、発症までの期間）に影響を与えるかを明らかにする。【方法】対象は、朝日生命成人病研究所付属医院（以下、当院）において初診日が2005年から2010年の期間内で、妊娠出産経験あり2型糖尿病患者とした。対象者163名のうち、当院カルテに1回以上妊娠中毒症経験ありと記載されていた19名と妊娠中毒症経験のない144名とで比較を行った。複数回妊娠を経験している場合は初回妊娠からの期間とし、糖尿病の発症年月日は(1)空腹時血糖値126mg/dL以上または随時血糖値200mg/dL以上、(2)HbA1c値6.5%以上、(3)当院医師による2型糖尿病の診断のうち最も早い日とした。発症までの期間を妊娠中毒症の有無で比較した。(糖尿病発症好発年齢45歳) - (昭和50年代第1子出産年齢平均25.7歳)より20年を基準に、期間の長短を妊娠中毒症の有無で比較し、20年以下と以上との差を調べた。【結果】20年間を基準にした期間の長短は、妊娠中毒症の有無で有意差がみられ、妊娠中毒症有りで20年以下の割合が多かった。20年以下群の既往最大体重の中央値は20年以上群の中央値に対して高かった。【考察】20年以下群では妊娠中毒症有りに関連がみられたが、同時に20年以下群は既往最大体重が高かったため、発症までの期間は妊娠中毒症が単独で関与するのではなく、既往最大体重とも関係すると考えられる。よって、その他の糖尿病発症関連因子の存在を考慮する必要がある。